

## 「建部井堰（たけべいせき）」が 「世界かんがい施設遺産」に登録されました

国際かんがい排水委員会(本部:インド・ニューデリー)が認定・登録する「世界かんがい施設遺産」に、旭川中流にある「建部井堰」の登録が決定したのでお知らせします。岡山県での同施設遺産への登録は、令和元年度「倉安川・百間川かんがい排水施設群」に続いて、2例目です。

### 1 内容

#### ＜建部井堰とは＞

「建部井堰」(北区建部町品田地内)は旭川の中流に位置する農業用の石造取水堰です。全長は650mで、現存する農業用の石造取水堰としては日本最大とされています。また、岡山藩の資料からは1721年には既に存在していたことが確認されている、歴史のある取水堰です。

かつて、備前国と美作国との国境が旭川の中央にあり、川を横断して堰き止めることはできなかつたため、隣国と結節しない、川の中央で途切れた「片持ち式」の斜め堰という極めて珍しい形態が特徴となっています。この取水堰から取った水は、旭川右岸の建部上、宮地、市場、中田、西原各方面へと引かれ、およそ100ヘクタールの土地を潤す役割を担っています。



※弓状に伸びる井堰を旭川上流から撮影

#### ＜登録までの経緯＞

市では、「建部井堰」を建部地域の活性化につながる地域資源の一つとして位置づけるため、令和4年度から登録に向けた井堰の周知・広報などの活動を行っていたところ、令和5年11月4日、「第74回 ICID 国際執行理事会」(インドのヴィシャーカパトナムで開催)において、築造当時の状態で保全されてきたことが評価され、「建部井堰」の登録が決定しました。なお、岡山県内では、令和元年度に初めて登録された「倉安川・百間川かんがい排水施設群」に次いで「建部井堰」が2番目の登録施設となります。

#### ＜今後の予定＞

・令和5年11月15日(水) 午前11時30分～、大森雅夫岡山市長、森田卓司岡山市議会副議長が農林水産省を訪問し、「建部井堰」の世界かんがい施設遺産の登録証を受領する予定です。

・今後は、建部井堰の卓越した技術や役割を広く広報していくことにより、建部地域の貴重な地域資源として位置付け、建部地域の活性化につながるよう活用してまいります。

## 2 その他

### <世界かんがい施設遺産>

・かんがいの歴史・発展を明らかにし、理解醸成を図るとともに、かんがい施設の適切な保全に資するために、歴史的なかんがい施設を国際かんがい排水委員会が認定・登録する制度で、平成26年度に創設。

・登録により、かんがい施設の持続的な活用・保全方法の蓄積、研究者・一般市民への教育機会の提供、かんがい施設の維持管理に関する意識向上に寄与するとともに、かんがい施設を核とした地域づくりに活用。

・世界かんがい施設遺産登録施設数(令和4年度まで)・・・142施設(うち日本47施設で最多)

・国際かんがい排水委員会(ICID : International Commission on Irrigation and Drainage / 1950年設立 / 本部所在地:インド・ニューデリー / 日本は1951年加入)

・今回、日本からは、「建部井堰」のほか、山形市の「山形五堰(やまがたごせき)」・静岡県長泉町の「本宿陽水(ほんじゅくようすい)」・静岡県富士宮市の「北山用水(きたやまようすい)」の3施設の登録が決定しています。

### <位置図>



### 【問い合わせ先】

岡山市 北区役所建部支所 板野・二宮 直通086-722-1111